

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを
作りましょう」

高田ロータリー
今年のスローガン

「善意を深め、
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるろ

2018～2019年度

国際ロータリー会長 バリー・ラシン
2560地区ガバナー 川瀬 康裕
高田ロータリー会長 牧野 章一
幹事 佐藤 教彦

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

第18回例会 ■ 11月9日(金)

No.18

会長挨拶 ● 牧野 章一



皆さまこんにちは、先週は医師会館での移動例会でした。

改めて、生活習慣の見直しは焦眉の急、差し迫った問題だと認識した人は多かったのではないのでしょうか。

11月は、ロータリー財団月間です。皆さまの浄財は、分かりやすい例で“ポリオ撲滅まであと少し”に代表されるように世界を変えています。我がクラブで言えば、10月行った高田駅前植栽プランターの設置はロータリー財団の「地区補助金」を活用した事業です。「高田駅」は高田文化の玄関口です。私たちがおこなった町おこしです。ご協力のほど宜しく願いいたします。

明日、明後日と二日間、当地区の地区大会が燕三条で開催されます。予定では、30名を超える皆さんの参加です。二日目、11日(日曜)日に大谷ガバナー年度の「次回地区大会開催告知」がございます。後ほど、遠藤地区大会実行委員長からお話がありますが、ガバナー輩出クラブとして何とぞ皆さまの積極的なご協力をお願いいたします。

今日は会員卓話です。宮川大樹さんです。「災害ボランティアに学ぶ豪雨対策」行動するロータリアンのお話です。楽しみです。

出席報告

出席率 100%

ビジター

横瀬和夫君 (高田東 RC)
宮崎朋子君 (地区ロータリー財団委員・越後春日山 RC)
松田光代君 (越後春日山 RC)

メイクアップ

牧野章一君・佐藤教彦君・東山昕也君・大谷光夫君・本山秀樹君・水上喜芳君・遠藤 巖君・飯塚宏佳君・箕輪賢一君・田中正人君 (11/10 地区大会)
牧野章一君・佐藤教彦君・東山昕也君・大谷光夫君・本山秀樹君・水上喜芳君・佐藤憲二君・石倉悟君・遠藤 巖君・羽深耕時君・三井慶昭君・伴長門君・羽深元悟君・橋詰敏一君・古淵英一君・飯塚宏佳君・岩崎幹男君・加藤公一君・高坂光一君・中田 正君・大島 誠君・齋藤俊幸君・箕輪賢一君・高橋正彦君・田中正人君・山田 守君・山崎公一君・チャールズ・C・ストラットン君・宮川大樹君・ジョン・スケンゼル君 (11/11 地区大会)

お客様スピーチ

宮崎朋子君——クラブからの寄付に対するバナー認証について

委員会報告

親睦委員会——11月の会員お誕生日 各お祝い
国際奉仕委員会——ジョン君ひとこと
大谷年度遠藤地区大会実行委員長——地区大会次回開催告知についてのお話し

会員インフォメーション

木村 隆君——近火見舞い御礼
齋藤尚明君——作陶展のご案内

幹事報告

配布物：週報No.16・17
報告：11/11 地区大会について(7:30 デュオ出発)
2019/6/2 2018-19 年度国際大会のご案内 (ハンブルグ)

会員卓話

災害ボランティアから学ぶ豪雨対策について～大切な人を守るために～

宮川 大樹 君



近年、毎年のように豪雨水害が発生しています。異常気象とも言われていますが年々被害も大きくなってきています。今までは「想定外」という言葉が使われていましたが毎年水害が常態化しており「想定外」で片づけられない事態となっています。

当市も過去3年において避難情報が6回ありました。昨年10月23日には台風による被害が発生し市内各地で浸水、甚大な被害となりました。そして本年8月28日の大雨では道路冠水など計242件の被害が報告されています。いずれも甚大な被害でしたが、防災の最低限のラインである死傷者を出さなかった事に対し関係各位の皆様の御努力に賛辞を送ります。

また、全国を見渡すと豪雨による大規模災害は5年連続で発生しており、本年も豪雨による大規模な自然災害が発生いたしました。いわゆる、西日本豪雨です。西日本を中心としたこの豪雨は、一旦「梅雨明け宣言」がされたにもかかわらず、再び活発化した梅雨前線の影響で、長いところは実に10日間に渡って断続的に桁外れの雨が降り続くなど、大雨特別警報が、全11府県に発表される異常な事態となりました。

これを受けて上越地域の3社会福祉協議会と上越・妙高・糸魚川の3青年会議所は連携して災害支援ボランティアバスを運行し、8月9日から11日にかけて総勢28名で倉敷市真備町で災害支援のボランティア活動を行いました。

私も個人的に8月8日・9日に広島県坂町に災害ボランティア活動に行き参りました。

作業は「泥だし、砂だし、土嚢づくり」。38℃の暑さと疲労で大変な中、被災者である82歳のおばあちゃんと70代の町内会長が前向きに談笑する心意気に感銘しました。

広島県の地形は、全国に比べて山地や丘陵地が多く、平坦地が極めて少ないのが特徴です。人口が多いため、山の中腹まで「まち」があります。これでは山が崩れたら、即、大災害。住民は災害と隣り合わせで暮らしているようなもので、大雨が降ればまた災害が起こり、多くの人命を失い、大きな財政出動が行われる。これは「都市のつくり方・あり方など、抜本的な改革が必要だ」と強く感じたボランティア活動でした。

さて、西日本一帯で起きた豪雨災害といってもその内容は多種多様です。岡山県倉敷市真備町では、小田川等のバックウォーター現象による洪水。愛媛県大洲市では、野村・鹿野川ダム放流による河川の氾濫。広島県での土砂災害は、爪で引っ掻いたような斜面崩壊、同時多発的な土砂崩れ、等々いずれも上越市でも起こり得る災害です。

防災関係でつくる学会「防災学術連携体」は緊急メッセージを発表し、「日本中で豪雨災害のリスクが高まっていて、あなたのまちも例外ではない。これまで豪雨があまりなかった地域ほど、経験不足のため豪雨災害がおおきくなります。」と呼び掛けました。

今回の災害で見えてきた課題があります。それは避難情報の在り方です。

西日本豪雨災害の避難情報は防災行政無線で夜間や早朝に発表されたため、避難が遅れ、自分は大丈夫という「正常性バイアス」で避難しないため被害が拡大しました。現に避難情報による実際の避難者が約3%と機能していないことによっても明らかになりました。「災害時には自分は被害にあわない」という根拠のない楽観は禁物で、年に1回位は防災避難訓練に参加するなど、危険に敏感な「心の堤防」を上げる努力が住民側にも欠かせない事を学んだ今回の災害ボランティアでした。

私もひとこと

2018-2019年度地区大会に参加してきました

やすね 箕輪 賢一 君



11月10日(土)・11日(日)と三条市で開催されました、国際ロータリー2560地区の地区大会に参加してまいりました。初日のセミナーへは次年度のRI会長晩餐会の準備勉強のために、翌日の本会議は三条RCがどう大会を運営するのかを確認し、我々はどうすべきかを発見する為でした。2019-2020年度は第7分区高田クラブの大谷光夫ガバナーの年となりますので、いつもより緊張感を持って参加した2日間でした。

会場規模も大きく本会議での講演会やアトラクションも素晴らしかったのですが、印象に残ったのは「海外の大学生・高校生のスピーチの質の高さ」・「青少年交換の学生の成長」でした。本年度は青少年奉仕委員会に所属していることもあり私

自身もこれからの活動の中で、未来ある彼ら彼女らに何が出来るのかを考えさせられ、感動を胸に帰って参りました。青少年奉仕は3年間抜けられませんので、今後はもっと積極的にアクトをはじめとする活動に参加できるよう頑張る予定です。勉強不足ロータリアン5年目の私ですが今後共ご指導よろしくお願い致します。

追伸：牧野会長による【次期開催地代表挨拶】は非常に旨く行き、会場からは割れんばかりの拍手でした！

